

手  
技

第一週

自由畫 二回

畫のかきたきものには黑板に自由畫をかゝせたり、自由畫帖にかゝせたりする。この時、自由畫帖には一回に一枚二枚位に制限してかゝせて、亂雜に自由畫帖を使用しない事をはじめからのきまりにする。畫きたる自由畫につき幼兒にその説明をきゝて、その畫の横に説明の月日を記入しておく事にする。

缺仕事 一回

色模造の小さきものを二三枚(お木皿なご)に入れて、幼兒に自由に切らせる、時としては何かまごまりたるものを切るものあればこれをきり紙帖なごに糊ではりつけて自由畫同様に説明の月日を記入しておく

粘土 自在 一回

全く幼兒の自由につくらせる。

第二週

自由畫 一回

第一週に同じ

缺仕事、汽車 一回

上圖の如く四五種の色模造紙にて機關車、客車、なごの出來上りたるものを見せて、幼兒に自由につくらせる。汽車の煙、車なご黒のクレヨンでかゝせる。

粘土 おだんご 一回

一〇センチ位のヒゴ三本位用意する粘土を丸めて一つのヒゴに三個位さすこれを三本つくらせる。

ヌリエ ヒヨコ



### 第三週

自由畫 ゴム風船 一回

保育室に色の異つたゴム風船を飾つておく、幼児がこれを觀察して、自由に畫かしめる。

缺仕事 ゴム風船 一回

前に自由畫でゴム風船を畫きたるものを缺仕事として色模造紙二三種にて幼兒の觀たるゴム風船を切りせ

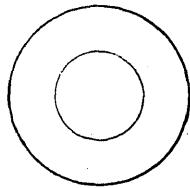
ヌリエには事情のゆるす限り色鉛筆を使用する事とする。各幼兒の一人宛にミ、のへる事の出来ない時は組なり園なりで備へておいて、各幼兒交代にて使用する。ヒヨコを黄色にぬりたるものを幼兒に見せてぬらせらる。ヌリエにもぬりたる月日を記入しておく事にする。

る。鉛筆にて輪廓をかゝせて切りぬかせてもよい。保姆が糊をつけて帖面に貼りたる後にゴム風船の絲はクレヨンで幼兒に畫かせる。

粘土 自在 一回

製作 こま 一回

畫用紙に直徑六センチ位の圓を畫き、その圓の中に更に直徑三センチの小圓を作つて二色にヌリ分けてその圓のまわりを切りぬかせる、一人の幼兒に二つ位作くらせる。



五センチ位にヒゴを一本用意して畫用紙の中心に穴をあけて下へ一センチ半出して上下をマメゴムを半分に分つてつけてヒゴを動かさないやうにする。

る。この時マメゴムの代りに梧桐の實を用へば趣もあり經濟でもある。コマの軸の下の端は斜に切つてコマが廻りやすくする。

ヌリエ 一回

切り紙をしてこの汽車は前にもあつたので幼児に機關車は機關車らしく、客車は一色つゝかへてぬる事だけ約束してぬらせる。

自由畫 鯉のぼり 一回

幼稚園の庭に立てられた鯉のぼりを觀察して畫く、椅子を庭にもち出して寫生らしくするのもよい。

製作 鯉のぼり 二回

赤、黄の模造紙の半紙半分大に二つの鯉が畫がけるだけの大きに一ぱいに鯉の形を謄寫して(裏表に出来るやうに考へてかく)眼、鱗は幼児にかゝせる。これを周

圍を切りぬいて二枚のまわりだけ糊ではり合せ口はあけておく。

模造紙五色を細長く切つて吹流をつくる鯉赤、黄二匹を吹流に糸をつけて麥わらを通したヒゴに結びつける。このヒゴの頭に小さい風車をつけてもよい。これをたてるときにはヒゴの下に粘土をつける。

粘土 柏餅 一回

保育室に飾られた五月人形にお供へする柏餅をつくる。皮を平につくりその中にまるめたあんを入れて二につ折つて柏の葉なぎ庭より摘んで包む。